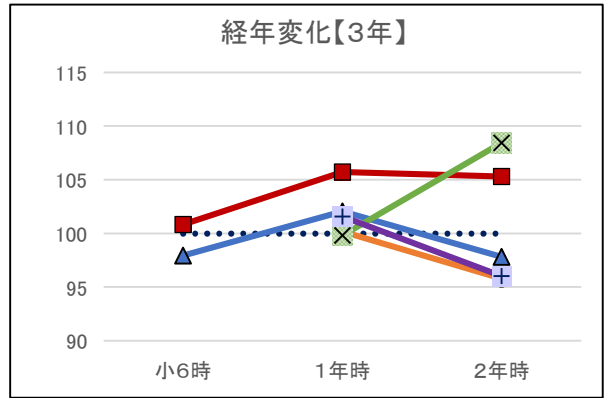
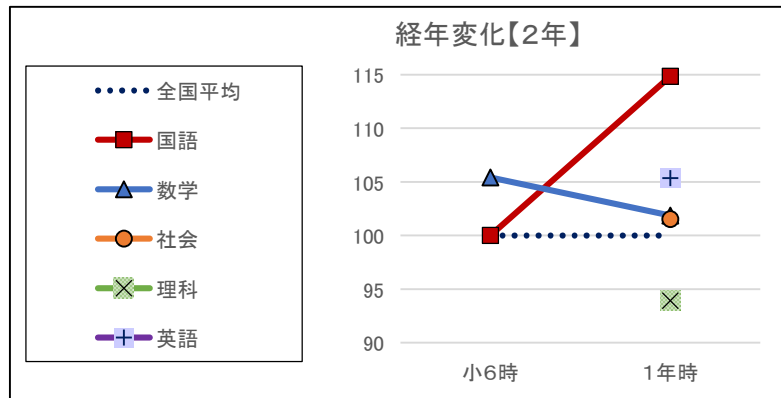


## I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

### ① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に社理英においても実施しています。



### ② 学校の状況

「自分には良いところがある」「友達、先生、家の人から認められていると思う」と考えている生徒の割合が全国平均より高く、自己肯定感が高く意欲的であり、学校生活に概ね満足していると考えられる。一方で、「将来の夢や希望を持っている」「自分の力をできるかぎり伸ばしたい」と考えている生徒の割合は全国平均より低い。キャリア教育を充実させ、目標達成や夢の実現に向け努力できる環境を整えていく必要がある。

学習面については、対話的な授業への転換を図ったことで、話し手の考えを聞き取ったり、互いの発言を結び付けて考えを深める力が向上している。今後は、考えたことを説明したり、わかりやすく表現する力や説明的な文章を読み解く力も養っていく。家庭学習は習慣化されており、自ら進んで取り組む生徒も増えている。しかし、復習時間は増加しているものの、わからないところを調べるなど予習に取り組む生徒の割合は低い。探究的な学習を通して、調べることや学びを深めることの楽しさを体感させていく必要がある。授業アンケートの結果からは、グループ学習に前向きな生徒が多いことがわかった。引き続き対話的な学習に取り組むと共に、効果的にICTを活用し学びを深めていく。

## II 今年度の学力向上に係る重点取組

### ① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> <li>対話的な学習を通して、思考を深めたり、表現することで、学習意欲の向上に繋げる。</li> <li>対話する必然性がある課題を設定することで、意欲的に授業に臨めるようにする。</li> <li>「課題提示→学びの見通し→個人思考→集団思考→まとめ」の一連の流れを重視していく。</li> <li>ICTを活用し効果的に時間を使うことで、思考を深めたり、表現する時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿寒中スタンダードを徹底し、全学年同じ姿勢で学びに向かうようにする。</li> <li>対話的な学習が成立する信頼関係を教育課程全般を通して培っていく。</li> <li>個々の考えを集団で尊重する授業を行うことで、共感的な人間関係を育てていく。</li> <li>思考を深める時間を確保することで、粘り強く課題に向かう習慣を培っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校の授業に、IT教師を派遣することで、小中の連携を進める。</li> <li>家庭学習が習慣化してきているので、予習にも取り組めるよう支援をしていく。</li> <li>外部人材を効果的に活用し、人権教育や防災教育に取り組む。</li> <li>家庭での読書が習慣化するよう、引き続き朝読書に取り組んでいく。</li> </ul>

### ② 各教科での指導の重点

国語科の重点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>対話を軸とした授業展開やICTを活用した協働学習、授業内での定期的な復習や小テストの実施、毎週末に出す作文課題などの取組の継続が、成果となって表れている。「文法・語句に関する事項」に若干の課題がみられるので、学年末や新学年初めに授業内での復習の機会を設け、学び直しにより定着を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生は1年生の頃と比べ「話すこと聞くこと」の領域が大幅に上昇しており、対話学習継続の成果が顕著にみられる。しかし、「情報の扱い方に関する事項」に若干の課題がみられるので、読解指導において、複数の情報を比較しながら正確に読み取る学習に力を入れていく。</li> </ul>

### 数学科の重点

- ・ 2、3年生ともに全国平均とほぼ同程度の正答率で、おおむね良好である。習熟度別少人数授業の一定の効果はあったと考えられる。2年生は文字式の計算や比例、反比例などの関数問題が弱い傾向にある。授業内で復習に取り組むと共に、家庭学習でも学びを深められるよう支援する。
- ・ 3年生は思考や表現力を必要とする問題では弱い傾向がある。また、主体的に学習に取り組む態度も低い結果となっており、粘り強く問題に取り組めていない。連立方程式の計算を中心にドリル学習に取り組むことで、自信と学びに向かう意欲を養っていく必要がある。

### 社会科の重点

- ・ 2年生は地理を中心に全国平均を超えており、基礎的な内容はもちろん、それをもとに活用することもできている。歴史的分野については、年度当初に学習した基礎的な内容（歴史の流れ、時代区分）を復習したり、資料をもとに考察する場面を授業で多く取り入れていく必要がある。
- ・ 3年生は地理的分野「日本の地域的特色」については、白地図、地図帳を用いて繰り返し学習を行ったため、基礎的な内容が定着している。歴史的分野は資料から考察したり、判断する力が不足している。授業で様々な資料を結びつけて考察する場面を多く設定しながら、対話を通して学びを深めたり、考えを書く機会を増やしていく。

### 理科の重点

- ・ 2年生は「光」の領域で、実験や作業を増やし、実験の考察などを自分の言葉でまとめさせる機会を多くした結果、正答率が全国平均を上回った。しかし、学年当初の分野での定着が悪いので、中学校理科の勉強法を早い段階で確立できるよう支援していく。
- ・ 3年生は授業において、復習の時間を取り入れたことにより、基礎的事項の定着が図られたが、「気象」の領域では思考力や記述する力が不足している。様々な現象を、自ら考え、自分の言葉でまとめる機会を増やし、思考力、表現力の向上を図りたい。

### 英語科の重点

- ・ 2年生は語形・語法や語彙の知識・理解は深まっている。言葉のきまりや情報の読み取りなどに関する、やりとりが効果的に働いている。一方で長文の読み取りに関しては苦手としている。「Q&A」「True or False」などを活用し、要点をとらえ、必要な情報を読み取る練習をしていく。
- ・ 3年生はリスニングの内容理解や語彙の知識・理解が深まっている。語彙に関しては、理解、練習、定着の流れを意識した取り組みが良い方向に進んでいる。一方で英作文が苦手なので、場面や状況、相手を意識したまとめりやつながりのある英文を書く練習を継続的に行っていく。

### 音楽科の重点

- ・ 3年生はリコーダーを継続してスモールステップで学習することで、苦手意識が減ってきている。個人で曲練習を進めることもできるようになっており、今後は質を高めたり、難易度の高い曲にも挑戦させていく。
- ・ マスク着用の生徒が多いため、声が聞こえてこない。歌うことは嫌いではないが、大きな声で歌う事へは抵抗感がある。発声練習では大きく出せるが、歌になると声が小さくなってしまいう生徒が多いので、発声練習通りの声で歌に繋げられるよう支援をしていく。

### 体育科の重点

- ・ 球技などの集団種目に積極的に取り組み、生徒同士で教え合う対話的で主体的な学習が成立している。今後もICT機器を有効に活用して、課題やポイントなどをペアやチームで交流することで、学びが深まるよう支援していく。
- ・ 全国体力・運動能力調査の結果から、柔軟性、全身持久力が低いことがわかった。準備運動などで柔軟体操や有酸素運動を継続して行っていく。経年変化から改善の兆しは見とれるので、活動時間の確保と継続した取組が必要である。

### 美術科の重点

- ・ ICT機器を活用した学習を進めることによって、創作活動と鑑賞の学習に関わる情報を主体的に分析や判断する学びが成立している。今後は対話的な学習も取り入れ、他者の視点も参考にしながら、作品を創作できるよう支援をしていく。
- ・ 制作した作品を校内展示することによって制作活動の達成感と満足感を持つことができるようにしている。今後は学級・学校便りで作品の画像を掲載するなど、保護者や地域の方にも観ていただきながら、創作への意欲が更なる高まるようにしていく。

### 技術・家庭科の重点

- ・ 技術では知識・技能の習得に向け、ロイロノートを用いた振り返りや単元テストを実施した結果、学習の成果が現れている。材料加工や電気回路製作の活動では、知識・技能を生かして活動できるよう、教科書や資料を適切に用いるための支援を行っていく。
- ・ 家庭科のまつり縫い、スナップボタン付け、刺し子の授業では、最初に動画を見せることで、見通しをもって作業に取り組むことができた。経験不足の生徒が多く、実技に関わってわからないことやできないことが多い。ICTを効果的に活用し、個々のペースで手順や方法を確認できるようにしていく。